





# 經濟欄

## 今季米棉收穫豫想 千五百五十萬俵

棉花市場は可なり平穩

八月一日調査に係る今季米棉作柄及び收穫豫想は去九日發表されたがそれによれば一千五百五十九萬三千俵(五百封度)で前月の豫想より約五十萬俵の増加であつた

之により紡育市場に於ては九月の低落を示した。即ち最初當業者に對する發表に四ボイント(次いで公式發表となつて五ボイントから八ボイントの低落)から二ボイントの安値であった、リーアブルの安値である。八級品に於ても三ボイントから二ボイントから三ボイントの低落を告げ仕切に際しても二ボイントから三ボイントの安値を示した。

米國政府は今季米棉生産費は

例年より増してゐるため封度當り最低十二仙の棉作は保

分生産費を償ひ得る値段は保

障するといはれてゐる、この

ため米國内外の棉花關係方面

の棉花下落に多大の損害を受

けるだらうとの豫想も近く解

消する筈である。

今回發表の今季米棉豫想は昨

年六月三十日現在の熊

伊代表の報告によれば

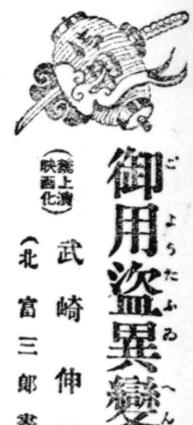
八級品以下の輸出禁止案を提

出するではないかとの風評に對

して二ボイントから三ボイントの安値を示した。

二割六分の一千二百三十一萬

六千九十九俵(五百封度)である



(映画化) 武崎伸平  
(北富三郎画)

【五十三】  
春近し(十)  
お澄の傍には、これも黒無地の同じ衣装をつけた千鳥のお鉢が座つてゐる。匂ひ溢れるばかりの黙黙さである。表向きは某藩の大身が、浪人して江戸に住むを構へてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

女の態度に、これが賊の頭か?と心中騒ぐと共に、いよいよ相手が容易ならぬ一味であることに致します」

「長い間、昏迷をあかけ致しましたが、今夜、戌の上刻までに、薩摩屋敷までお伴することに致します」

殺すのは惜しいと思つた。こんな大丈夫を、身代金のために大死させるのは勿體ない、空恐ろしいといふ氣がした。だが、既に夢幻組の最高主脇部で評決済みのことである。それを振回すこととは、たゞへ首領であつても、到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沈痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

しながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死させるのは勿體ない、空恐ろしいといふ氣がした。だが、既に夢幻組の最高主脇部で評決済みのことである。それを振回すこととは、たゞへ首領であつても、到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死

させるのは勿體ない、空恐ろ

しいといふ氣がした。だが、既

に夢幻組の最高主脇部で評決済

みのことである。それを振回すこと

とは、たゞへ首領であつても、

も到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死

させるのは勿體ない、空恐ろ

しいといふ氣がした。だが、既

に夢幻組の最高主脇部で評決済

みのことである。それを振回すこと

とは、たゞへ首領であつても、

も到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死

させるのは勿體ない、空恐ろ

しいといふ氣がした。だが、既

に夢幻組の最高主脇部で評決済

みのことである。それを振回すこと

とは、たゞへ首領であつても、

も到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死

させるのは勿體ない、空恐ろ

しいといふ氣がした。だが、既

に夢幻組の最高主脇部で評決済

みのことである。それを振回すこと

とは、たゞへ首領であつても、

も到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫を、身代金のために大死

させるのは勿體ない、空恐ろ

しいといふ氣がした。だが、既

に夢幻組の最高主脇部で評決済

みのことである。それを振回すこと

とは、たゞへ首領であつても、

も到底出来難いことである。

「御心中、お察しいたします。さぞ妾共が情ういらつしやいませう」

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「危ない!」

念佛は手を貸しながら、殺すのは惜しい」と、お澄と同じ思ひに、腕が一杯だつた。

見玉は沙痛に言つて、立上らうとした。

「お察しいたします。同じ

見玉には存するが、夢幻組の議決

お澄は顔を外向けて、暗然と

ながら、手で念佛に合掌した

と閉してしまつた。

「見玉殿、拙者個人としては、

御慰めの仕様もない程、お氣の

満たる黙黙を、ちつと見入つた

世間が、ひづてゐるといふ様にあるまいか——疲労した兒玉の脳裡に

「散々の御無禮の御詫びまでに

殺すのは惜しいと思つた。こんな

大丈夫







